

第15回

ともなり文芸祭り

ともなり文芸大賞発表

和歌に通じ、後に「信生法師集」などを残した初代川崎城主、塩谷朝業。その朝業公をしのび、平成11年度から開催されています。

2月23日(日)、第15回ともなり文芸祭りが市文化会館で開催されました。23年度から短歌一般の部を全国から募集し、短歌、俳句、川柳、詩の4種目合わせて7835点の作品が寄せられました。その中からともなり文芸大賞、ともなり文芸準大賞、ともなり文芸奨励賞などが選ばれ、発表されました。

記念講演を開催

日本文藝家協会理事長で、宮中歌会始選者でもある歌人の篠弘氏による講演も行われました。「半世紀の女性歌人」と題し、短歌の持つ魅力が話されました。観客の皆さんも真剣に聞き入っていました。



短歌

【小学生の部】
面とられくやし涙がこみあげた
それでもうまい母のおにぎり
片岡小学校四年 中郷 成生

【中学生・高校生の部】
童巻で心配してる友からの
メールが届く母の携帯
矢板中学校三年 奈良帆那美

【一般の部】
家ごとのコンバインにて刈り入れる
結のしきたり失せて久しき
茨城県日立市 高須美智子

俳句

【小学生の部】
朝晴れて昨日の台風うそみたい
那須塩原市立関合小学校五年 郡司 真唯

【中学生・高校生の部】
冬眠をしてみたいなと思う朝
片岡中学校三年 芳賀 花音

【一般の部】
校長似の学校田の案山子かな
宇都宮市 阿久津勝利



川柳

【小学生の部】
勉強のやる気スイッチどこにある
さくら市立氏家小学校三年 長井 亮磨

【中学生・高校生の部】
はじまった節約という母のケチ
矢板中学校三年 島田 晏寿

【一般の部】
親の背をいつか越す気の子の自覚
足利市 篠宮 璋



短歌 小学生の部



中郷 成生さん

短歌 中学生・高校生の部



奈良帆那美さん

俳句 中学生・高校生の部



芳賀 花音さん

川柳 中学生・高校生の部



島田 晏寿さん

詩 小学生の部



藤田 秀哉さん

詩 中学生・高校生の部



高橋 俊裕さん

詩 一般の部



和子さん

写真は当日ご出席いただいた矢板市在住の方です

詩

【小学生の部】
ぼくは忘れない

矢板小学校六年 藤田 秀哉

夏休みに訪れた 石巻市
ぼくは いろいろなものをみた

ぼくは忘れない
コンクリートの柱が折れ かべがたおれた
大川小学校
集会所の屋根はほとんどなくなっていた
流された子も思っ お母さんたちが
植えたひまわりがさいていた

ぼくは忘れない
高台の一階まで津波が来ていた
女川町立病院
病院の前のビルが横だおしになっていた
家はみんな流され 土台だけが残っていた

ぼくは忘れない
火事で焼けてしまった 門脇小学校
六・九メートルの津波の高さをしめす鉄の
棒
ボランティアの人たちが植えた花だんが
あった

ぼくは忘れない
プレハブの建物でおみやげを売っている
おばさんたち
仮設住宅で人形を作っていた人々
津波で被害を受けた 石ノ森まんが館の
スタッフ
みんなふつうに役立てようと努力していた
ぼくは忘れない
ぼくにできることは 被災した人たちを
忘れないことだから

【中学生・高校生の部】

自然と人間の関係

矢板中学校三年 高橋 俊裕

自然はいつも穏やか
僕たちの身勝手な行動や行為を
いつも静かに見守り
人間に恩恵を与える

そんな自然もいつも穏やかではない
人間の身勝手な行動や行為に
まれに怒り 悲しみ
人間に罰を与え 警告をしているのだ

しかし人間は気づいていない
自然のバランスを破壊していることを
自然からの警告が終われば
また身勝手な行動や行為を始める

自然は警告の数を増やしている
自らの状態と有難みを知ってもらおうた
めに
警告は人間が引き起こしたものだ
自然と人間は密接な関係であると

【一般の部】

乗り越えて

矢板市 和子

梨の花咲く頃
今までの暖かさを押しつけ
寒波が襲う
一晩中風車をまわし梨を守る
木の根元に火を置き梨を守る
二日目も繰り返す
三日目の夜 雨が降り
今夜は大丈夫と思つた翌朝
朝日を受けた真っ白な花びらから
ぼとりとずくが落ちる
そして透明になりうなだれる
たつた一夜のうちに凍てつき
うなだれた花たち
花びらが落ちたばかりの小さな実は
あまりの寒さにやけどを負い
やがて黒ずみ地面に落ちる
今年の収穫はだめかもしれない
ため息混じりにつぶやく言葉が
沈んでいく

凍てつく夜を耐えた花たちが
凍てつく夜を耐えた実たちが
傷ついた所があれば自らをいやし
太陽の日ざしをいっばいに受け
雨や大地の恵をいっばいに受け
やとと収穫の時期を迎える
うちの梨を楽しみにして
毎年顔を見せてくれる人たちに
なんとか答えることができた
笑顔とともにつぶやく言葉が
広がっていく